

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.822 2022

2022年12月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



東部クレメンチュクYMCAの子どもキャンプ。壁の貼り紙には「未来へ向かって」「#友情」「#希望」と書かれています

OPINION

## ヨーロッパYMCAにおける ウクライナ避難者支援活動

ヨーロッパYMCA同盟総主事 ホアン・イグレスias

軍事侵攻以来ヨーロッパ諸国には、約660万のウクライナ人が避難しており、各地のYMCAはその支援に奔走しています。ポーランド、モルドバ、ルーマニアなど隣接諸国を中心に、現在8カ国約220カ所のYMCAが、宿泊場所や食料、医薬品、生活物資の提供をはじめ、新生活のオリエンテーションなど、各種の支援活動を行っています。

6月頃からは、長引く避難生活によって不安や不眠、無気力など抑うつ症状を抱える方が増えてきたことから、心のケアにも力を入れるようになりました。青少年のキャンプやスポーツ、ヨガ、レクリエーションといったウエルネスプログラムや、ウクライナ語で自由に話せるオンライン・スピーキングクラブ、ストレス対策講座などを実施し、心身の健康維持に努めています。

ウクライナ国内では17カ所のYMCAが、戦火の中で暮らす方々の支援をしています。家屋を失った方への宿舎の提供、子どもたちのレクリエーション、障がい者のキャンプ、さらには留守宅のペットの世話など、多方面にわたって活動しています。

こうした支援活動は、世界中の皆さんからの募金をもとに、YMCAの会員によって行われています。私は先日、ルーマニアのYMCAを訪問しましたが、大勢のウクライナ避難者たちもまた、ボランティアとして活躍していました。ほかに、YWCAやワイズメンズクラブ、他NGOなど、町中の人たちが協力して支援にあたっていました。

戦況の見通しがたたない中、私たちは今後、以下の活動を続けていく計画です。

- ①避難者への生活支援：今も増え続けている避難者に食料や薬を届けるなど、緊急支援は欠かせません。
- ②募金活動：外部助成金なども含め資金調達に努めていきます。各国の皆さまもご協力をお願いします。
- ③ロシアとベラルーシへの支援：

ヨーロッパ同盟にはロシアとベラルーシのYMCAも加盟していますが、彼らもまた苦しい状況に置かれています。政府の監視が厳しく、自由な発言が許されない上、子どもたちの活動も中断されています。経済状況も危機的ですが、政府によって海外からの募金の受け取りは拒否されているため、私たちはアルメニアなど周辺国を経由して物資を届けるなど、注意深く慎重に支援に取り組んでいます。

- ④中長期的な計画の策定：

長期化する避難生活の中で、住宅や教育、就労、言語の習得やコミュニティ作りが必要になっていきます。特に子どもたちが希望をもって成長していけるようサポートを続けていく必要があります。同時にこれらの活動を行うYMCAのマネジメントの強化についても、戦後復興も見すえながら中長期的に計画を考えなければなりません。

私はこうした支援活動を行っていく上で、「3つのP」を大切にしたいと思っています。「Publicise（広報宣伝）」「Program（プログラム）」「Pray（祈り）」です。共に祈り、協働しながらプログラムを展開し、そしてそれを丁寧に周知していくことが肝要です。この分断されてしまった世界の中で、YMCAに連なる私たちは人々の尊厳を守り、人と人をつなぐ「希望の架け橋」とならなければなりません。日本の皆さんも引き続き、共に祈り、共に歩んでください。“Together we care”。（文・編集部）

日本YMCA研究所オンライン研修会 10月19日より

## 温暖化対策へ、アジア12カ国が連携 グリーンアンバサダー・トレーニング

日常的に起きる洪水、不作による物価の高騰など、深刻化する温暖化問題に取り組むため10月3日～7日、タイのチェンマイYMCAを会場に「グリーンアンバサダー・トレーニング」が開催されました。参加したのはラオス、ミャンマーなどアジア12カ国のYMCAスタッフなど30人。日本からは現地参加した私のほか、同じく東京YMCAの日野枝里子さんがオンラインで聴講しました。

このトレーニングは「アジア・太平洋YMCA同盟」の主催で10年ほど前に始まったもので、年に2回、学習会や情報交換などが行われています。今回はタイのサオヒンYMCAが主管し、ラジャハット大学で自給自足生活をしている研究所を訪問したり、研究者による講義を受けるなど専門性の高い研修が行われました。



タイで普及が進んでいる「移動式ソーラーパネル」を見学

各国YMCAによる事例発表では、「屋上にソーラーパネルを設置して、地域に電力を提供している（フィリピンYMCA）」「電気が通ったばかりの農村にも、節電の知識を普及している（ラオス）」「プラスチックごみをYMCAで回収してクッションやコンクリートに加工している（フィリピン）」など、工夫をこらした取り組みが共有されました。

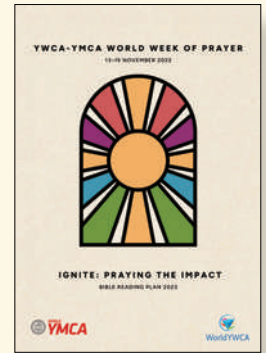
「私たちのコミュニティには、将来世代や自然も含まれている」というチェンマイ大学のワッサン教授の言葉が印象に残りました。自分が生きていく間だけでなく、将来世代や離れた地域についても共感できる感性を育むこと。そういった価値観が問われていることを実感しました。

今後この研修への参加者を増やしていくことや、持続可能な社会のために具体的な行動を起こすことが、日本のYMCAに期待されています。

東京YMCA 池田 麻梨子

## 世界の仲間が心を合わせて 世界YMCA/YWCA合同祈禱週開催(11/13～19)

世界のYMCAとYWCAは1904年以来、11月の第2週を合同祈禱週とし、毎年一つのテーマを決めて世界各地で礼拝や集会を行っています。今年のテーマは「Ignite: Praying the Impact (運動の拡がりに火をともし～祈りによって)」。これはYMCAとYWCAがそれぞれ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に基づいて策定した長期計画「Vision 2030(世界YMCA)」と「Goal 2035(世界YWCA)」に沿ったものです。深刻化する気候変動、終わらない戦争、人権侵害や不正など、多くの課題をかかえた社会の中でYMCAとYWCAは、「苦難にさらされている人々のために祈り、最も困難な状況にある人々のために心を尽くして活動すること」「変革のために祈り、働きかけること」が期待されていることを確認。聖書の言葉と両会長からのメッセージに学び、世界中のコミュニティーに希望をもたらすことができるよう、心を合わせて祈りの時を持ちました。



日々の祈りのテーマは以下のとおり。

- 第1日: Impacting Change 変革をもたらすために
- 第2日: Impacting Wholeness 全人的成長を求めて
- 第3日: Impacting Hope 希望をもたらすために
- 第4日: Impacting Responsibility 責任をもって
- 第5日: Impacting Dignity 真の人間性(尊厳)を求めて
- 第6日: Impacting Unity 一つとなるために

▶両会長のメッセージは、ホームページでご覧いただけます。  
<https://www.ymcajapan.org/topics/20221110/>



## 100人で語り合った 「YMCAを通してかなえたいこと」

### ～第53回全国YMCAリーダー研修会～

全国YMCAで活躍しているユースリーダーを対象に、年に一度行われる「全国YMCAリーダー研修会」。第53回の今年も、その学びや出会いをより確実なものにし、「ユースエンパワーメント」につなげていきたいという願いから、6月、9月、11月の3部構成で実施。6月は「Ignite(点火)」、9月は「LOVE～みんなで“わ”をひろげよう～」、11月は「Creation(創造)」という3つのステップでプログラムを組み、阿蘇キャンプ場とオンライン参加のハイブリッド形式で行われました。参加者はオンライン含め約100人。依然としてコロナが心配される中でしたが、3年ぶりに集うことができました。

6月は1泊2日で、3人のYMCA総主事による鼎談および青山鉄兵さん(文教大学准教授)等を囲んでの語り場。9月は社会学者の宮台真司さんと神戸YMCAの阪田晃一さんを講師に「私たちが目指すべき社会について」2泊3日にわたってディスカッションを重ねました。その後11月には総括として、「私たち若者が、YMCAを通して、かなえたいこと」をYMCAごとに発表。15カ所のYMCAリーダーたちによる発表は、熱心な質疑もあって5時間に及びました。

主催は全国YMCAウェルネス担当者会。主管は熊本および福岡YMCA。昨年末からリーダーたちによる実行委員会を組織し、ワイズメンズクラブの協力を得て実施されました。感謝して報告します。

最終日の発表よりリーダーの声の一部をご紹介します。



阿蘇キャンプ場で行われた9月の研修会。前列中央左は宮台真司さん

### 参加リーダーの 発表より Leaders' Voice

今後、リーダー同士のつながりを強めるため「横浜YMCAリーダー評価研修会(YLET)」をすることにしました。卒業後もリーダーのOBOG会を立ち上げて関わっていく(横浜YMCA)

今回はこれまで経験したことがないくらいに深く考えた研修だった。難しいことでも、あきらめずに考えることで成長できる。常に問い続けることが大事だと思った(盛岡YMCA)

コロナでリーダー同士のつながりが弱くなっていったので、思いを共有する場を大切にしたい。経済的な理由でリーダーを辞めてしまう学生もいた。全国的な支援制度が欲しいと思う(京都YMCA)

研修後の話し合いでは、居場所が大事だという意見が多かった。そこで、障がいのある子どもたちを対象に、さまざまな体験ができる「放課後児童支援クラブ」を立ち上げようと思った(福岡YMCA)

信頼ベースの「つながり」で世の中をよくしたいと思った。その想いを広めるため僕たちはオリジナルの歌を作ることになった。ただ今「わ」をテーマにした歌詞を募集中(熊本YMCA)